

ここで見られる植物：ネズミサシ (Temple Juniper; *Juniperus rigida*)

高さによっては低木とも小さな高木とも考えることができるネズミサシは、時々お寺で装飾に使われることから、英語では“temple juniper”とよばれています。燃やすと放たれる白い煙は虫除けとしても効果的で、一昔前の農家の人たちは畜牛を収容していた建物の外でネズミサシを燃やしていました。

ネズミサシは雌雄異株の常緑樹で、丘陵地や低山地で自生します。大きなものには、高さおよそ 10m、直径約 30cm に達するものもあります。3 枚 1 組となって出る尖った針葉は、鋭いことからげっ歯類を追い払うと信じられていたこともあり、この植物の名称ネズミサシ (“rat-stabber”) のもととなりました。4 月頃には、前年葉のわきに緑色の花が咲きます。雄花は楕円形、対して雌花はそれより細長くなっています。球形で肉厚なネズミサシの果実は、成熟すると緑色から暗い紫色になります。